

2020年7月21日

各 位

会 社 名：ウインテスト株式会社
(コード：6721 東証二部)
代表者名：代表取締役社長 姜 輝
問合せ先：専務取締役 樋口 真康
(TEL：045-317-7888)

ディスプレイ・ドライバIC向け検査装置「WTS-577SR」 発表のお知らせ

この度、ウインテスト株式会社は、スマートフォン、タブレット、液晶や有機ELテレビ等のディスプレイに使用されるディスプレイ・ドライバIC向け新型検査装置「WTS-577SR」を発表します。

ディスプレイ・ドライバICは身近なところでは、スマートフォン、タブレットの画面や薄型TVそして、パソコンのモニター等に使われており、液晶や有機ELに代表される「表示画面」の「画素」トランジスタを制御するICです。話題となっている次世代5G通信規格と今後主流となるWi-Fi 6の拡大に伴い、高精細表示パネルは大きな成長が見込まれます。「表示画面」が高精細（キレイ）になればなるほど、多くの画素が画面内に配置されており、制御するためには大容量、高速なデータ転送が必要となります。そのICの機能を検査するためには、各「画素」をより緻密、高速に制御する必要があります、日々進化するICの機能に合わせて、より高速、高機能の検査装置が求められています。

「WTS-577SR」は、既存の検査装置「WTS-577」に大幅な改良を加え、C#言語など従来の使いやすい機能を保ちながら、データ処理及び転送速度を改善することにより、テストスピードの大幅な向上を実現することができます。最大駆動周波数は2Gbpsで、最大データ転送速度は11Gbpsを誇り、大量の検査データを高速に処理することが可能となります。5Gで大容量化する検査に対応、スマートフォンの標準インタフェース規格であるMIPI、液晶や有機ELテレビの標準インタフェース規格であるmini-LVDS、P2Pを搭載するドライバICの検査も同時にこの1台の装置でカバーします。また、最大512のI/Oチャンネルと2304ピンのLCDチャンネルを備えていますので、複数チップの同時測定やフルHDなどの高画質の映像規格のテストをサポートします。

中国市場において2020年にディスプレイ用パネルの生産量が、その世界製造シェアで50%を超え、2021年には60%に迫るという予想（IHI調べ）が出ています。「WTS-577SR」は、同市場に対して満を持して投入する新型装置となり、既にパイロット顧客においてベンチマークを頂いております。また、中国に製造工場を持つ当社の強みを生かしたブランド戦略によって、中国・台湾のデザインハウス、テストハウス等から、新型装置への期待とお引き合いを頂いております。

「WTS-577SR」の出荷開始は2020年10月を予定しています。

※本ニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報であり、諸般の事情により予告なく変更されることがあります。

以上